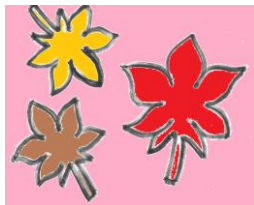




有限だからこそ

通勤で使う駅のホームや車内広告で、紅葉の風景写真を目にするが増えてきました。以前は何とも思わない時期もありましたが、最近「きれいだなあ。」と思います。なすべき役割を終えて、これから散っていく紅葉に敬意に近しいものを感じているのかもかもしれません。



もともと無粋な人間で、春の桜の花でさえ、以前はそれほど関心がありませんでした。周りの大人たち、テレビ・ラジオの開花予報など、なぜ毎年こんなにかわくのか不思議でもありません。

しかし、花があつという間にその姿を消してしまうこと、花の盛りの後に時期をずらして葉が出てきてしまうことなどを知ってからでしょうか、蕾が膨らみ始めると、もうソワソワするようになりました。桜花そのものもいつの頃からか「可憐で可愛いものだなあ。」と思うようになりなりました。

理由を知ってから、また、意味や価値が後付けできてから、見方、見え方、感じ方が変わることがあります。小学校の何年生だったでしょうか、セミの生態を知ったときはちよつとした衝撃でした。暗い土の中で、もぞもぞと八年(種によつてはそれ以上)も暮らして、地上に出て空

を飛びまわれるのがたつたの七日間なんて。今鳴いているセミは自分より年上なのかも」と思いました。それ以来、セミだけは捕れなくなりなりました。

さて、これからの時期、受験生である中学三年生は、塾内では公開模試、塾の外で会場模擬試験、学校では定期考査と実力テストと、模試やテストの種類も回数も増えます。毎年「こんなに受けられない」「準備が間に合わない」「解き直しが追いつかない」等の声が上がります。確かに、定期考査の準備の中、模試を受け、解き直しを実施し、会場模擬を受け、自己採点をする、その解き直しをする、等の流れを作るのは大変かもしれません。

これからの時期に模試・会場模擬の回数が増えるとはどういうことなのでしょう。答えのほとんどは、本番が近いということ。一つは明白です。本番が近いということ。本番が近づけば近づくほど、リハーサルの頻度は上がるものです。部活動の練習試合・対外試合・リハーサルもそうだったはず。そして回数が増えたからといって手は抜かなかつたはず。むしろ精度を上げる努力をし、中身の充実を図つたはず。

もう一つ、受験生のみんなに覚えておいてほしいのは、この慌ただしさは本番までの「期間限定」であり、ずっと続くものではないということ。活用できる時間には限りがあるということです。

「本番前の期間限定」という側面から、模試・模擬を捉えると、実に練習試合や交流戦と重なり

ります。日程が本番から離れていてまだ時間的に猶予がある練習試合では、弱点を発見したあと、長期的に対策が組めます。練習メニューも様々に変えられるし、内部の紅白戦でいろいろな戦術も試すことができます。

本番が近づけば近づくほどこの点はシビアになります。新しいことは試しづらくなるし、戦術は「試す」のではなく「仕上げる」時期になるのです。実戦で通用するのか、その仕上がり・完成度が最も意味を持つわけですし、「できないこと・できないこと」も「すること・しないこと」も理解していなければならぬ時期になります。受験生はこれらのことを認識していなければなりません。「自分の使いたいようにいくらでも時間が使える」とは言えない時期が来るのだということ。

ただし、有限であることを理解し、日々それを忘れず、やるべきことをきちんとこなしていくことができれば、残り時間の有効性を高められます。本番という終わり(区切り)というべきか)が見えている者だけが、現実的な計画を立てられて、真剣に取り組めて、どの時期に何をするかを決められます。有限性を理解することは可能性を広げる第一歩なのです。

(五日市)

「私」の勉強術 その六 〜ゆるい勉強術〜

私は四人兄弟の末っ子です。加えて猫が三匹

いたのでそれは賑やかで、いつも家のあらゆるところに皆が集まって行動していました。

そんな中高時代、私はよくリビングで勉強をしていました。隣では兄弟がテレビを見ています。横では猫が寝転んでいます。決断していい環境ではない中で、だからだと勉強生活を送っていました。(塾の自習室や先生を存分に利用できない皆さんには縁のない環境ですね！)

しかしある日、私は兄弟により、リビングで勉強することを禁止されました。理由は「集中できていないのを見かねて」……ではなく、「うるさいから」です。なぜ勉強している側がうるさい、と言われるのでしょうか。

実は私は、ことあるごとに「音読」をしていたのです。現在私は英語講師ですが、英語に限らず、公式や原理、年号と事件、古文などすべて声に出して覚えていました。

ところで、皆さんの中にこんな経験をお持ちの方はいませんか。ただ黙々とペンを走らせているとき、またはぼんやりと教科書を眺めているとき、脳の半分、いや七割くらいは明日の給食について考えている……。もし心の中で「自分のことだ」と思ったら、ぜひ音読を試してみてください。

なぜなら、「音読」を取り入れるだけで**邪念が一切消える**からです。目の前の文字と、口の動きと、聞こえてくる自らの声。音読をしているときの世界はそれだけです。そして、**いろいろな感覚を使つた後に眠ると内容を覚えている**ことが多いのです。

さらに英語の場合は、スペルを覚えなければいけませんよね。発音をしな



から見たら書いたりすると、発音とスペルの共通部分が見えてきます。例えば「make」「take」などの「a_e」は有名です。これで覚えられる容量がドンと増えます。でも、すぐ次の壁にぶつかります。「right」と「light」。どちらも同じに聞こえますが、発音記号を見ると、確かに「r」と「l」で記号が違うのです。また、「sun」と「man」の「a」の部分を見てみると、「u」の発音記号は「[ʌ]」「[a]」の発音記号は「[æ]」。ここにも違いがあります。

これに気が付いた私は、発音記号と発音の仕方を覚え直しました。**発音記号を見ながら「正しい発音」で音読するのは非常に効果的で、それ以降綴りで悩むことがほぼなくなりました。**このおかげで私は高校三年生の時、毎週行われる英語テストで学年唯一、半年間を通して満点を記録しました。(シャイだったので、一人だけ集会で表彰されたときの恥ずかしさが逆に記憶によく残っています。)

私は度々、授業で音読の大切さを説いています。その効果はいろいろところで研究・実証されていますが、何よりも自分の身をもって体験しているからです。是非、皆さんも「書く」「見る」だけではなく、声に出して読んでみてください。自習室など、声を出せない環境であれば、口を動かすだけでも大丈夫です。また、創学舎の先生方は、声に出して覚える面白い語呂合わせをたくさん知っています。覚えるのに困ったら、「何か良い語呂合わせありませんか?」といういろいろな先生方に声を掛けてみてくださいね。(増子)

「私」の勉強術 その七 〜計画嫌いの勉強プラン〜

私は元来、仕事でも私生活でも計画を立てるのは苦手です。

そんな私も、やはり受験勉強という締め切りのある戦いに身を置いていたところには、計画的な勉強はどうしても必要で、継続できる計画の立て方を苦手なりに考えたことがありました。というわけで、今回は私が当時実践していた計画の立て方の一部をお伝えしたいと思います。

① 気の進まないものほど義務化する

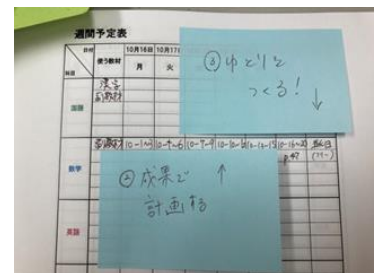
当時の私にとって、英語や古文はどちらかと言えば苦痛でした(今はそうでもないですが)。それらは放っておくと先延ばしにしてしまうもの。そこで、毎日一定量を必ず、計画の一番初めに入れるようにしました。義務にしようことで、それは習慣化・日常化し、苦痛の緩和に繋がります。ある意味、好きな科目の勉強を始める前の儀式のような感覚です。

余談ですが、中三生が取り組んでいる数学の副教材でプリントを切り貼ったり、指示通りに線を引いたりしますよね。それらの作業も同じように苦痛を緩和し、継続しやすくする効果があるのではないのでしょうか。

② 時間ではなく成果で計画する

例えば「〇時から〇時は数学、〇時から英語……」のように計画を作ると、実際には大して進んでいなくても、極端な話ただ机の前でじっとしているだけで目標が達成されてしまいま

すよね。まず机に向かうところから、という段階ならば無意味ではないかもしれませんが、力をつけるための勉強と考えると、達成度を時間で測るのはあまり良くないと思います。私のような意志がゆるゆるの人間にとっては特に。したがって、「〇時間」ではなく「〇ページ」「〇問」のように、実際の成果を基準に考えましょう。



③ ある程度ゆとりを持ち、適度に自分を赦す

さて、②とも繋がりますが、成果で目標を設定すると、想像以上に時間がかかったり、計画通りに実行できなかつたりすることも往々にしてあるもの。自分に対する期待や、目指すものが高ければ殊更です。そこで、計画段階でゆとりを作っておきましょう。例えば一週間を一タームとして考えたときに、土日のうちどちらかは完全フリーにしておいて、その週の未達成分の消化に充てる、いった具合です。

そして、それと連動して、自分を責めすぎないようにしてほしいと思います。すべて計画通りなんて、なかなかありません。その日の計画の六〇七割未満の達成率が続くようなら計画の立て方を見直したほうが良いですが、体感八割程度が達成できていたら及第点ということにしておきましょう。もし十割なんて達成できたら、それはもう帰りにおいしいものでも食べてください。それくらいスタンスの方が、継続できると思います。そのためのゆとり計画です。

いかがでしょうか。今回紹介したのは私のような基本無計画マンでもかかって実践でき、かつ効果が感じられたものたちです。私も今回当時のことを思い出し、改めて計画の大切さを感じております(この原稿を締め切りギリギリに執筆していることも踏まえ、自戒を込めて)。「勉強法」というテーマからすればいささか邪道だったかもしれませんが、科目ごとの具体的な勉強のしかたは教室でお伝えできれば、と思います。(神山)

難関私立対策講座 十月開講!

創学舎では、受験校が確定し私立高校の過去問演習に取り掛かろうというこの時期、毎年「難関私立対策講座」を開講しています。専修大学松戸や芝浦工業大学柏など、難関私立高校の問題は質・量ともに公立入試とのギャップが甚だしく、特別な対策が必要です。創学舎では、難関校の問題傾向の分析と精査された問題演習を通して、十分な演習量を確保すると共に「難関へのアプローチ法」や「時間配分」などについての確かなアドバイスをを行います。

- 回 三コマ×二回 (十月・十一月・十二月) 柏教室にて合同実施
- 英語・数学 四コマ×七回 (流山おおたかの森教室を除く集団各教室 ※教室ごとに開催日が異なります。後日配布の案内でご確認ください。)